

前回（第 34 回）懇談会での指摘事項と対応

指摘事項	対応
基本的な見直しの進め方について ・東京一極集中の是正に関する指標化を検討してほしい。（山下、藤井） フローチャート（第1案）について ・システム開発の机上デバッグと似ている。特に脆弱性評価の場合は、災害の代償を払うことなく検討が進められる点で大変優れている。（山下） ・フローチャートは、初期事象と最終事象があらかじめ決まっているイベントツリーであるため、同時並行で起こる事象が忘れられがちになるから注意。（小林） ・最悪の事態からフローチャートを遡っていくことで、必要とされる事象はある程度見えてくるが、複数の事象が最悪の事態につながっていく場合に、それぞれの事象が同時に発生した時に限り最悪の事態が発生するのか、いずれかの事象が発生しただけでも最悪の事態につながり得るのか、フォールトツリーとしての整理が必要。（森地） ・同時性や広域性、さらには中枢が被災したかどうかといった空間規模の観点が表現できていないので、工夫していく必要がある。（森地）	対応 ◎ 8 つの目標・45 の事態の見直しに反映 ① フローチャートの考え方に反映 ② 脆弱性(予備)評価指針に反映し、各省指導 ③ 脆弱性(予備)評価のとりまとめ時に反映 ④ 評価結果又は基本計画とりまとめ時に反映 ④脆弱性評価結果をとりまとめるにあたり、総合的な脆弱性を示すアウトカム指標の位置づけで、人口動態、企業立地等の現状を数値で盛り込むとともに、毎年度のアクションプランでウオッチしていくこととする。 ①フローチャートの考え方を整理するにあたり、フォルトツリー分析手法(FTA)の考え方を取り入れ、フローチャートをより合理的に理解しやすい形に進化させる。 ①フローチャートの中の事象を表現する際に、極力スケール感も伝わる表現となるよう、工夫すべきことを、「フローチャート作成の考え方」に記載していく。

・東京一極集中是正のための地方分散化のような、フローチャート上の数多くの事象に対して被害の軽減に寄与するものをどう表現するか。また、一粒で三度おいしいような施策は、各事象における効果を足し上げて重要度を評価してもよい。(藤井)

8つの事前に備えるべき目標について

・目標において「情報サービス」が明記されることは、レジリエンスの3つの軸（官と民、ハードとソフト、非常時と平時）において、「民」「ソフト」「平時」に求められる内容が象徴的により明確化されるという観点からも重要である。(山下)

・目標2は被災者の立場に立ったものであり、供給サイドの立場に立った目標6についても、エネルギー源の分散化などの多重防御の考え方を取り入れていくべきではないか？(柏木)

→現状、目標2の中でエネルギー源の分散化等は施策として取り上げられている。

・「大規模自然災害発生・・・」とすべてに記載する必要はないのでは？シンプルにした方がよい。(中林)

↓

・「大規模自然災害発生直後から」と記載のある目標については、初動体制のための準備が事前にとられていることが必要なものである一方で、「大規模自然災害発生後であっても」と記載のある目標については、主に災害発生後のレジリエンスに関わるもので、意味があると思われるので、現状のままの表現でよい。(松原)

・国土強靱化は「災害に対する暴露そのものを下げる」ことが大切。(中静、中林)

③脆弱性(予備)評価結果を踏まえ、どのようなプログラム又は施策を重点とすべきかについて検討する際に、考慮する。

②脆弱性(予備)評価の調査票の中で、各施策が(1)ソフトかハードか(2)官民連携施策か(3)平時の施策目的は何かを確認するとともに、フローチャート上でもソフトハードのバランス、組み合わせが確認できる表現としていく。

◎エネルギー源の分散化は重要であり、現在も目標2、目標5、目標6を構成するプログラムに記載があるところ。

今般の見直しに際し、各目標の概念整理を行い、需要サイドの分散化は目標2（生活関連）、目標5（経済関連）に、被害の最小化・早期復旧のための供給サイドの分散化は目標6に整理し直すこととし、解説に記載。

◎表現はシンプル化し、頭に入りやすくする。

一方、これら表現で示されていたと思われる主にターゲットとする場面（事前の備えが効果を発揮する期間）は、今般、8つの目標の概念整理を行う中でより詳細に解説することとし、共通認識を持てるよう工夫することとする。

②防災の観点からの立地適正化や、分散化などの施策にかかるご指摘であり、脆弱性(予備)評価を行うにあたり、各府省に上記視点からの施策の検討を促す。

・仙台防災枠組について、4つの優先行動のうち、ビルド・バック・ベター（より良い復興）以外の項目についても、解説等に盛り込んでいくことが重要。（小林）

45の「起きてはならない最悪の事態」の改訂について

・豪雪等により物流の麻痺や停電等が発生することの深刻なもので、雪は目標1ではなく、目標2に基づくものとして整理すべきではないか。（中林）

・それぞれ独立した災害が連続して発生する、いわゆる複合災害については、どこまで対策を講じるべきかについて現時点では明確でない。例えば大地震と大噴火の場合、あるいは大地震と台風の場合等について、災害に対する暴露を減らす視点を整理することも必要。（小林）

・二次災害については、良い表現は思い浮かばないが、それぞれ独立した災害が連続して発生する、いわゆる複合災害のケースと、市街地火災のように1つの災害によって発生した事象が影響しあい、被害を拡大させるケースの2種類があり、それぞれのケースを区別して整理することが必要（中林）

◎4つの優先行動のうち「災害リスクの理解」は、目標1で重要な「自助」と関連が深いので、目標1の解説に反映させる。

②他にも仙台防災枠組の反映は重要であると考えているが、4つの優先行動はプログラム横断的であり、目標の概念整理を行う解説文には馴染まないため、脆弱性(予備)評価を行うにあたり、各府省に上記視点からの施策の検討を促す。

④また今後、基本計画をとりまとめるにあたり、仙台防災枠組との関係性についても基本計画の中で整理し、記載することを検討する。

◎目標1は、暴風雪等に伴う凍死や建物倒壊等による直接死を主にイメージしている。ご指摘の交通途絶による物流の問題や、停電の問題については、ハザードの種類によらず目標2・目標5で整理することしたい。なお、現在も目標2や目標5の施策に含まれている。

◎複合災害については、当初、目標1に関する施策の組み合わせで対応可能と考えていたが、自然災害に連続して発生する事故等については目標7で想定すべきであり、現在も複合災害的な事象に対する施策が目標7に多く含まれているので、解説文を修正